

---

## ■ 理事会社

SSW-Pile 工法開発に携わった会社

SSW-Pile 工法協会のメンバー

事務局は、株式会社奈良重機工事

先端パーツの製造・販売は、株式会社コクエイ

## ■ 指定施工会社

理事会社より SSW-Pile 工法で工事を行うことを許可された会社

施工する工事(物件)ごとにロイヤリティーを協会に支払う

※「ロイヤリティー」ではなく「**工法使用料**」と呼ぶ (2013.08.07)

指定施工会社にするかどうかは理事会社が決める

→協会が会員登録を行う

理事会社が SSW-Pile 工法で工事を行う場合も

1 指定施工会社として協会にロイヤリティーを支払う

↓

会社:ログインユーザは1:多

理事会社 … 理事権限ユーザと一般権限ユーザの2ユーザを持つ

一般指定施工会社 … 一般権限ユーザのみ

会社情報に権限を付与するのではなく、別途ログインユーザ情報を設け

所属会社と権限を持たせる

## ■ ロイヤリティー

※「ロイヤリティー」ではなく「**工法使用料**」と呼ぶ (2013.08.07)

工事物件ごとに指定施工会社より徴収

**請求のタイミングは「工事が完了した月」**

徴収したお金は、SSW-Pile の開発や協会運営経費、理事会社への配当に充てられる

(半期ごとに精算を行う)

↓

精算処理は本システム外の事務作業として行われる  
そのために集計処理 & データ出力 (CSV/PDF) が必要

**ロイヤリティーの金額は発注したパーツ本数により異なる**

#### ■ 物件登録

SSW-Pile 工法で工事を行う案件を登録する

性能証明書を取得するため、協会は定期的に工事实績を報告しなければならない

↓

実績報告書ための集計、出力

登録のタイミングは、案件が発生した段階（見積の段階）で行う

相見積の場合もあるため、複数の指定施工会社が同じ案件を登録することもありうる

但し、「受注」に至るのはうち1件だけである

どこが受注するかは本システム外で話し合い等で決める場合が多いので、

システムでの制御は不要

他社に物件情報を見られても構わない

実績報告には実際に工事が行われた案件のみが対象となるため、

登録した案件が見込みのままで終わったか受注に至ったかのステータスを登録する必要がある

また工事が完了したら完了ステータスの登録を行う

↓

完了した物件に対して、協会から認定書が発行される

認定書発行は本システム外で処理するため、対象データの抽出と CSV 出力が必要（集計処理）

基本、幹事会社＝施工会社であるが、多忙な時期などは他社に施工を委託する場合がある

責任の所在を明確にするため、幹事会社・施工会社をそれぞれ登録する

**各物件の登録/ステータス変更は、指定施工会社が各自行う**

1つの指定施工会社が同時に複数の案件を登録する場合も当然ありうる

## ■先端パーツの購入

各指定施工会社からコクエイに発注する(工事開始の10日前までに発注)

購入数は、物件登録で登録した本数と一致していなくても構わない  
余分に購入したり、他物件の分もまとめて発注してもよい

注文されたパーツはコクエイから指定施工会社が指定した納入先へ直接配送する

配送先やパーツ本数により、運送業者・運賃はその都度変わる

↓

出荷手配時にコクエイが決める

※出荷手配時にコクエイが運送業者、運賃の入力ができるようにする

指定施工会社は、パーツ代金をコクエイに支払うのではなく協会に支払う

コクエイは協会に対して請求を行い、パーツ代金を受け取る  
(物件ごとではなく月締めでまとめて請求)

指定施工会社へのパーツ代金の請求は、

発注した月の月末締め

パーツ代金は理事会社と一般指定施工会社とで単価が異なる

また、原材料の価格変動により価格改定が行われる

(ロイヤリティーの変更もある)

※管理メニューでロイヤリティーとパーツ単価の変更ができるようにしておく

先端パーツはいまなお開発が継続しており、今後パーツの種類が増える

## ■ロイヤリティーとパーツ代金の請求

請求は物件ごとではなく、月締めでロイヤリティーも含め全物件まとめて請求する

ロイヤリティーとパーツ代金とで締めのタイミングが異なるので、

1つの物件のロイヤリティーとパーツ代金の請求が同じ月とは限らない

「入金処理」は請求に対しする締めの意味合いとして行うものであり  
お金の管理を行うものではない  
いつ入金となされたかわかればよい

---

■先端パーツの仕様について

2013/08/16 奈良重機工事さまより↓

---

先端翼の接合部が、  
右回転でロックするタイプが正回転、  
左回転でロックするタイプが逆回転になります。

先端翼の掘削する羽根が、右回転で掘って行くようになっています。正回転仕様では、杭の目標深度の地層があまり固くないところで、止める場合、先端が柔らかいので、生コンを入れて左回転でロックを外れず、供回りをすることがあります。

その為に、逆回転仕様では、ロックがかかってないので、目標深度で生コンを入れてそのまま引き抜くことが出来ます。

逆回転仕様の方が良く使われます。

注文書の仕様としては、先端翼の種類は1種類で、接合部だけが、正回転、逆回転の2種類。

---